

AI(エア・インディア)の思い出 冷や汗ものの乗継

荒岡 衛

初めてインドへ出張した帰路の話である。2011年12月J-COAL*の調査団の一員としてデリーの北東約850kmにあるカルガオン発電所へ行った。終了後パトナ空港発16:45のデリー行AI416便に乗るため発電所を16日の朝4:20に車で出発し13:30に空港に着いた。車中では早い便に空席があれば変更しデリーでゆっくりするかなどと話していた。ところが先発便は満席で変更できないだけでなく、その日は霧のためまだ1機も離着陸しておらず、機材は到着していなかった。

この出張メンバーは多くの会社の寄せ集めでデリーが解散地、日本への空路は各自手配、私は深夜のキングフィッシュ航空で香港、JALに乗継ぎ羽田に向かう予定だった。デリー行が欠航ならパトナ泊となる。チケットは変更可能だが出発前に連絡する必要がある。JALの発券なので日本の予約センターと携帯電話で調整するが時差の関係でインド時間15:30がリミット。予約便は遅延、他も遅延と欠航の表示なのでやむなくデリー-羽田の予約を翌日に変更した。

その後16時過ぎに2機が着陸、デリー行は予約便が先に出発することになった。飛ぶなら進むしかないと思い乗り込んだ。しかし機中で先のことを考えると不安で一杯だった。

デリーから先の予約はキャンセルしてしまった。JALの営業時間は終了している。デリー事務所は翌日14時まで開かない。最悪はデリーで一泊することだ。なぜならインドでは有効なE-チケット控を見せないと空港ビル内に入れないからだ。日が変わるとE-チケット控を印刷し直す必要があり、まだ取ってもいないホテルにFAXしてもらわなければならない。香港行は自分がキャンセルした席が残っているだろうから、元のE-チケット控を見せて国際線ターミナル入りを試すしかない。

その通り実行、発券カウンタへ着き、金を払い（これは搭乗手続き時に返金してくれた）香港行きのフライトを確保、香港で再度手続きをして無事帰国できた。

注：J-COAL　：一般財団法人石炭エネルギーセンター